

インドネシア環境管理センター設立 25 周年記念式典・シンポジウム
トピックス地域視察ツアー

一般社団法人セタックジャパン
2018 年 8 月

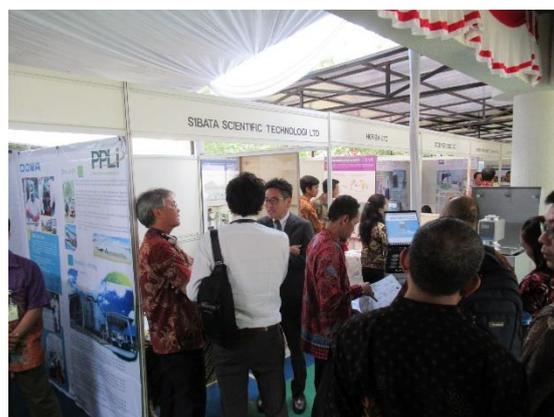
この度、2018 年 8 月 7 日のインドネシア環境管理センター（現：Research and Quality Development Center and Environmental Laboratory (P3KLL); 旧：Environmental Management Center (EMC)) 設立 25 周年記念式典・シンポジウムを共催いたしました。

EMC は 1991 年から 1992 年にかけて日本の無償資金供与により建設、1993 年に開設され、本年設立 25 周年を迎えます。SETAC Japan では、EMC の立ち上げに関わったメンバーの在籍をきっかけに、2015 年に EMC を含むジャカルタ近郊の環境関連視察およびセミナーを実施いたしました。このような経緯から、この度、独立行政法人国際協力機構（JICA）および EMC（現 P3KLL）を管轄するインドネシア共和国環境林業省（KLHK）より依頼を受け、式典・シンポジウムを共催いたしました。

日時： 2018 年 8 月 7 日 8:30 – 16:45
場所： Research and Quality Development Center and Environmental Laboratory (P3KLL),
Ministry of Environment and Forestry (KLHK)
アジェンダ： 別添
参加者： 約 470 名（内日本人は 50 名程）



登壇者の集合写真の様子



会場外の展示エリア

式典では、P3KLL が事務局となる水銀モニタリングやデータ蓄積を行う行政機関「水銀研究モニタリング委員会」の設立が宣言されました。また、シンポジウムでは、水銀管理、環境汚染、気候変動に伴う環境研究戦略について、両国の専門家によるパネルディスカッションが実施されました。

また、2018年8月6日及び8-9日には、式典・シンポジウムに関連して、今後 P3KLL が取り組む環境改善対策となる産業廃棄物処理やチタルム川浄化について実地を訪問し、現地の研究者や政府環境局の担当者から現状および対策のヒアリングを行いました。

チタルム川は西ジャワ州首都ジャカルタの東側を縦断する州内最長の川で、流域の住民の生活用水およびジャカルタ特別州の水資源の 8 割をまかなう水源となっています。一方で下流のバンドンに集まる繊維工場からの排水や生活排水、ごみの投棄などで水質が悪化しており、「世界で最も汚い川」の一つとして世界から注目を集めニュース等に取り上げられています。本年1月、ジョコ・ウィドド大統領は、今後7年間かけて抜本的に浄化に取り組むことを発表して日本に協力を依頼、日本政府が本年から支援に乗り出しています。

訪問先：

PPLi 産業廃棄物処理施設



PPLi はインドネシア国内で唯一、国際基準にも適合した有害廃棄物の最終処理の営業許可を所有している会社であり、廃棄物の最終処理、廃油・廃液処理、また土壌汚染調査や浄化業務などを行っています。日本国内外で資源リサイクル・廃棄物処理・土壌浄化などの事業に取り組む DOWA エコシステムのメンバーであり、インドネシアでも環境・コンプライアンスの面から企業をサポートしています。今回の視察では、ボゴールにある処理拠点を訪問いたしました。

PDAM Tirta Asasta 水道会社



インドネシアでは、ペットボトルの飲料水が普及していますが、再充填されたものも多く流通しています。再充填の水には、規制が無く安全性に多くの問題があります。この水道会社は、安価で安心できる飲料水を水道管で供給することを目的としており、今回は見学させて頂きました。

バンドン県環境局 (DINAS LINGKUNGAN HIDUP (DLH) Kabupaten Bandung)



産業廃水、生活排水の状況と、県が実施しているモニタリングについて（観測ポイント、観測項目等）お話を伺ったあと、ラボを見学しました。

西ジャワ州環境局 (DLH Prov. Jawa Barat)



Environmental Pollution Control Division を訪問し、産業廃水の規制、取締の実施状況、モニタリングの現状等を学びました。

チタルム川の工場排水流出ポイント



繊維工場の廃水がチタルム川へ廃棄されるポイントを見学しました。

排水口の上には、環境保護団体グリーンピースによる危険を訴える看板が設置されています。

右の写真の左側の黒い水が工場廃水です。

バンドン工科大学



環境工学部門の Dr. Ir. Agus Jatnika Effendi を訪問し、バンドン工科大学におけるチタルム川の汚染状況のモニタリングおよび、水質改善のための技術や製品の開発状況などを紹介いただきました。

視察実施にあたり訪問先との調整等ご協力くださいました皆様、ならびにご参加くださいました皆様に心より御礼申し上げます。有難うございました。

以上